

水球競技におけるアシストパスの研究

－ 1999年FINA World Cupにおける退水ゾーンを対象として－

○ 洲 雅明（大分県立芸術文化短期大学） 南 隆尚（鳴門教育大学）

榎本 至（中央大学） 高橋淳一郎（順天堂大学）

水球競技 アシストパス ゲーム分析 退水ゾーン

【目的】

水球競技において得点場面では、シューターがディフェンスやキーパーを翻弄して得点する場面と、パッサーなどが有利な状況を作り出してからシューターにパスを送る場面がある。パスが得点に対して効果的であればアシストパスと呼ばれ、後者の方がその効果が高いと考えられる。水球競技ではその明確な定義がないため、これまでその評価は行われてこなかったが、得点場面ではシューターと同様にパッサーも評価することはできないであろうか。本研究では、得点場面におけるラストパスを分析し、アシストパスの評価基準の基礎資料を得ることを目的とした。

【方法】

1999年FINAワールドカップ（於：シドニー）における全20試合（全277得点）を対象とし、退水時攻撃の得点場面（141件）を反復再生することにより、シューターへのラストパスの特徴をデータベースに入力した。その後、統計ソフトを用いパスを特徴毎に分類した。また水球熟練者4名（平均27.3歳）により、各パスをアシストパスとして5段階評価した。各パスにおける特徴と4名の平均値（評価得点）を比較することにより、アシストパスの評価基準を考察した。

【結果と考察】

1. ラストパスのコースと評価得点

図1に退水ゾーンにおけるラストパスの頻度の高いコースと評価得点を示した。パスコースの拠点は左右トップからが多いが、評価得点は左右ポストへのパスが高かった。

2. ラストパスの特徴と評価得点

以下にパッサー又はシューターの動作及び件数（評価得点）を示した。

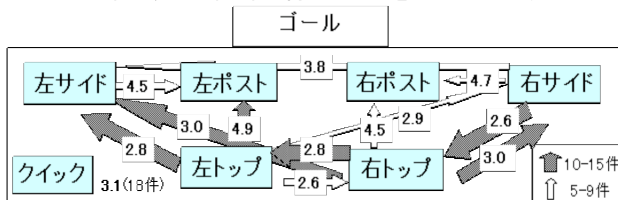


図1 退水ゾーンにおけるパスコースと評価得点

（1）パッサーの投げ方 ノーマル 84件（3.1）， フェイク 46件（3.8）， クイック 9件（4.3）

（2）パスの軌跡 ドライ&ストレート 107件（3.4）， ドライ&ロフ 21件（3.9）， ウェット&ストレート 6件（2.0）， ウェット&ロフ 3件（2.8） 注

（3）シューターのボール処理 ドライのまま 103件（3.7）， ウェットから持ち上げて 12件（2.3）， ウェットにして 26件（2.7）

（4）シューターのモーション ワンモーション 86件（3.9）， ワンフェイク 28件（3.1）， 数回フェイク 25件（2.4）

3. アシストパスとしての評価

（1）ノーマルが件数は多いが、ディフェンスやキーパーを引きつけるためのフェイク、意表をつくクイックの方が評価得点は高い。

（2）退水時攻撃のパス回しは、速いテンポでボールを水につけずに行うことが効果的であるが、ラストパスにおいてもドライパスが多く評価得点も高い。またポストプレーヤーへのパスに見られるドライ&ロフが件数は少ないものの評価得点は高い。

（3）シューターは空中でパスを受けて水につけずに打つ件数が多く、評価得点も高い。

（4）攻撃側が1人多い退水時では、パスを回しキーパーとディフェンスの手薄な位置からシュートを狙うのでワンモーションによるシュートが多い。フェイク動作によるシュートはシューターの技術が入るため評価は低い。

注：ドライは空中への， ウェットは水面への意味

